大分合同新聞
ワークシート

年　　組　　氏名

大分合同新聞 2023年10月27日(金) 朝刊 23面

新特急「かんぱち」「いちろく」

久大線導入、名称決まる

JR九州は26日、来年春から別府・由布院－博多間の久大線に導入する新しい観光特急の名称を「かんぱち・いちろく」に決めたと発表した。明治、大正時代に久大線の開通に尽力した麻生観八（かんぱち）、衛藤一六（いちろく）の両氏から名付けた。

列車名は博多発が「かんぱち」、別府発が「いちろく」となる。

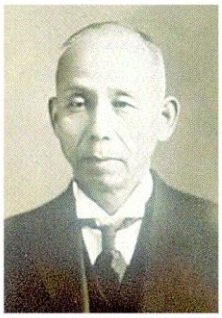
麻生氏は舟来（ふなこ）屋（現八鹿酒造＝九重町）の3代目社長で1906年から20年以上、久大線建設を求める運動を続けた。衛藤氏は旧大分県農工銀行頭取。大正期に由布院盆地内を通る現ルートの実現に力を注いだ。盆地入り口のカーブは現在も「一六曲がり」と呼ばれている。

3両編成（1両はラウンジ）で全席グリーン席。1日に片道1便運行し、木曜日は運休する。別府－博多間を約5時間かけて走る。

車両デザインやダイヤ、料金などは調整中という。

運行開始の時期は大分、福岡両県への誘客を図る「デスティネーションキャンペーン（DC）」に合わせた。同社広報部は「列車や背景も知ってもらえるのではないか」と話している。

（松尾祐哉）



「かんぱち」の由来となった麻生観八氏

「いちろく」の由来となった衛藤一六氏

〔問①〕新しい特急列車の名称となったモデルの人物は誰ですか？
２人、挙げてみよう。

麻生観八、衛藤一六

〔問②〕この列車はどのようなところを走るのでしょうか。

別府－博多間

©大分合同新聞社　教育目的以外の無断転載・複製および頒布は禁止します。